市史編さん講座　20201205　遠野市

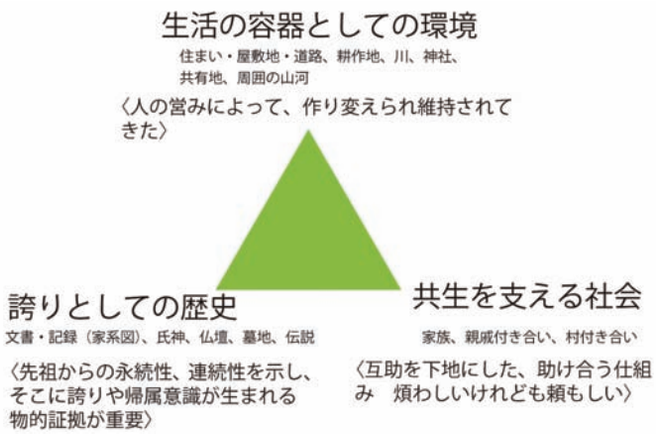
伝承を記録する―自治体史民俗編のありかた

岩崎真幸（遠野市史編さん委員　民俗部会）

1、「伝承」について

●「習わし」とか「しきたり」、「言い伝え」、「民俗」などともいう
●受け継がれてきた慣習や風俗、信仰、技術、知識などを指しており、無形のものも有形のものもある
●無形、有形の伝承を表現しているものを「民俗事象」という

衣食住　理髪、化粧など
生産・生業　稲作儀礼、山樵、諸職など
交通・運輸・通信
交易　行商、金融の種類、商業用具など
社会生活　ムラの生活、年齢集団、講集団、家族関係など
信仰　祈願、参拝、巡礼など
民俗知識　民俗教育、医療衛生、保健、占い、天文、気象など
民俗芸能・競技・遊戯
人生儀礼
年中行事
口頭伝承　伝説、昔話、民謡、わらべ唄、諺、日常生活用語など
「習わし」とか「しきたり」、「言い伝え」、「民俗」などともいう
『日本民俗資料事典』1969



2、自治体史民俗編とは何か―民俗調査報告書、民俗誌、自治体史民俗編

●「民俗調査報告書」＝あるテーマに視点を当て、それを成り立たせている民俗を記録し、それを体系的に構成しなおして記述したもの
●「民俗誌」＝ある社会を成り立たせている民俗を記録し、地域的特性に留意しながら、有機的な関連性をもって結びついている民俗のありようを記述したもの
＊いずれも伝承の記録

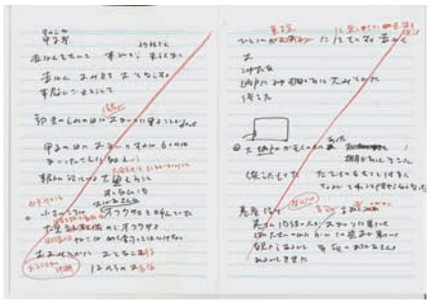
「自治体史民俗編」の要件
●「自治体史民俗編」＝「民俗誌」に位置づけられる
●「調査報告書」、「民俗誌」→研究者や特定の関係者を対象にする
●「自治体史民俗編」→不特定多数の一般市民を対象にする
「自治体史民俗編」の要件＝「読む」、「調べる」、「眺める（見る）」という３つの要件がある

基本方針を確立する
①時間軸をはっきりさせる
②遠野市域を一つの社会とした「民俗誌」を作る
③調査を通して、地域的特性とか、土地柄を示す民俗を明らかにしながら、これを中心に記述をする

時間軸の不明瞭さ
●時間軸をはっきりさせる→「昔」こうであったという情報だけではなく、今（調査時点の民俗）のかたちがどうなのかを示すよう努める
●「昔」とはいつのことを指すのか、可能な限り基準になる時間を明らかにする

3、資料化の方法―「聞き書き」が主要な方法

●民俗はさまざまな形で表現されている。当たり前すぎて記録することもないから、文献には残りにくい
●民俗事象（民俗を表現しているもの）の把握
＊「聞き書き」が主要な手段→経験者から話を聞いてノートする
＊写真や動画、音声をとる（技術、祭礼、芸能、口承文芸など）
●民俗事象を文章や図、映像などで「記録」することが資料化の第一歩→資料をもとに考証



4、記憶のあいまいさ

●聞き書きという手法は、生き生きとした証言を得ることができる反面、話者の記憶と調査者の受け止めに頼るだけに、資料としてのあいまいさを持ち合わせている。

●このあいまいさは資料の価値を左右し、資料の信頼性の低下を招くことにもなりかねない。意図的ではなくとも、調査者側の聞き間違いや話者の記憶の不鮮明さなどに起因する、聞き書きのあいまいさを無にすることはできないが、可能な限り正確さを期す必要がある→複数の話者から話を聞く

歩→資料をもとに考証

「聞き書き」の検証―史料や物的資料による検証のまえに

●時間が経つにしたがい時間的な記憶があいまいになりやすい

●証言は複数の関係者に確認して内容をクロスチェックし、検証を怠らないようにする。とくに、変化のはなはだしい時代における事象の聞き書きをする場合には、こうのような調査の基本を重んじることが要求される

5、区有文書とその活用

●区は大字とか行政区（ぶらくなどとも）と呼ばれている範囲で、独立した社会の単位になっていて、運営や協議の場、共有物を持つ。民俗学ではよく「ムラ」という

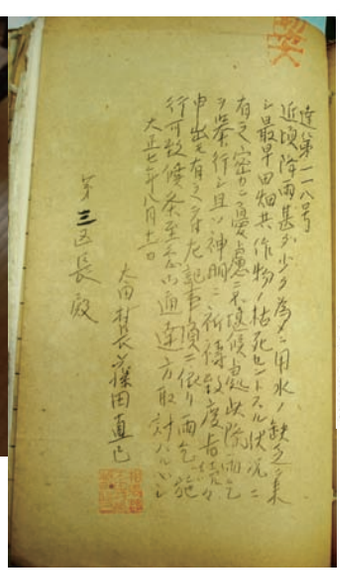
●ムラの共有物の一つの文書を「区有文書」とよぶ

●区長が管理し、区長が持回りしたり，区の集会所や地区の神社などで保管し、代々の責任者が引き継ぐ

●歴史学ではあまり重視しないが、区（ムラ）の実態を知るで欠かせない貴重な史料→社会の仕組みやムラの日常がよく分かる

南相馬市原町区　益田地区の区有文書

上太田区区有文書→



3-58 大正十五年七月十八日　石神村高倉での合同雨乞い

太田達第九八号

大正十五年七月十八日　　太田村長　藤田直巳㊞

各区長殿

昨日霊浜海岸ニ於テ太田大甕両村ニテ雨乞致シ候得共今回田中ノ郷一町四ケ村長会ニ於テ大々的ナル雨乞左記各項ニヨリ執行可致候条毎戸出場候様通達方取計ハレ度此段及通達候也

記

一、場　所　石神村高倉森ノ山

一、日　時　七月十九日午前九時太田大甕両村ハ県社太田神社集合

　　祈願同所午前十一時半出発

一、順　路　本村上太田字陣ケ崎ニ入リ石神第二小学校裏ニテ原町高平村ノ登山人ニ合シ一糸乱レス高倉森ノ山ニ登ルコト

　　但シ道路ノ要所ニハ石神村ヨリ案内者ノ派出アリ

一、帰　時　七月二十日朝大原ノ蛇穴ニテ解散

一、携帯品　雨具、三食分ノ食料、飲料水

（上太田区有文書）

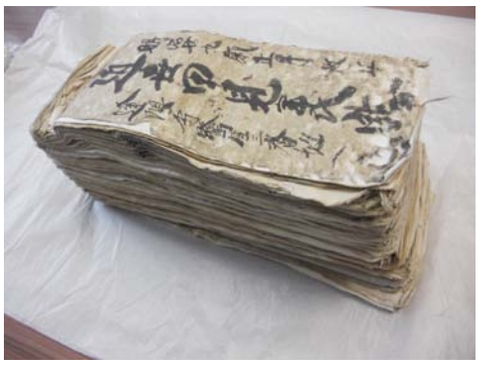
6、日記、家計簿のような記録

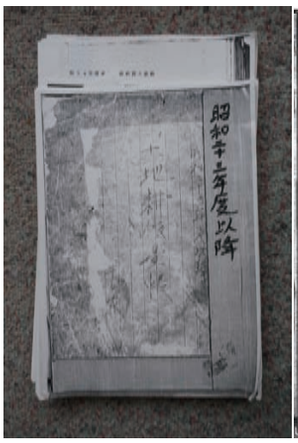
●日記や家計簿はプライベートな文書である。他人に見せるものではないだけに内容は正確で詳細。

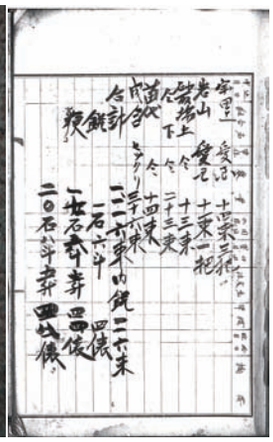
●農事にかかわる記録（農事暦や作付、収穫量、付き合いなどの記録）

●生活や家業、付き合いの実態、変容を知るための良質な記録であるが、容易に見せてもらえるものではない

「近世早見年代記（清野日記）』（明治 23 ～昭和 8）/「土地耕作台帳（平間家農事日誌）」（昭和 23 ～平成 24）　宮城県亘理町







7、記録を残そうとする人

●自らの体験や蓄積した知恵を、何らかの形で後世に残そうとする人もいる。

●その多くは、土地に根ざした経験者であり、調査者よりもはるかに深い知識と人脈を持ち合わせている

●民俗調査は、経験者（話者）に教えてもらう作業でもある

8、スナップ写真は記憶装置

●スナップ写真には、フレーム内に写し込まれている情報だけではなく、フレームの外にある暮らしぶりが記憶として凍結されている

●凍結された記憶を解凍することによって、ある時代の民俗相を具体的に把握することが可能

1.もちつき　旧福浦村　昭和15～20年ころ

中央付近に天野秀延氏が写っていることから、天野村長時代の福浦村で撮られたものではないかと思われる。大戦下にあった当時は、婦人会は国防婦人会や大日本婦人会などと称し、出征兵士の歓送迎や、遺族の慰問、竹槍の訓練などを行った。多くの男性が出征し、男手の足りない苦しい中にも、決して笑顔を絶やさない女性たちの力強さが伝わってくる。

①天窓　ガラスがはまっている、普通は障子。
②戸袋　開けた雨戸を収納しておく場所。
③戸袋の飾り　普通は見られない戸袋の飾り。花の模様が彫られているようだ。
④つるし柿　干し柿。渋柿を干して甘みをだしたもので、長期間保存できる。
⑤ハンキリ(半切)　上着、防寒着。
⑥モンペ　仕事をするときに履いた。
⑦下駄　木でできている。足袋を履いている。
⑧手拭い　ハチマキにしている。
⑨割烹着　白いエプロンは婦人会の制服のようなもの。戦時中はこれに、国防婦人会のタスキ着用が強制された。
⑩箱　つきおわったもちを入れる箱だろうか。
⑪フカグツ　長靴。
⑫天野秀延氏　昭和15年～20年までの大戦下に福浦村の村長を務めた。イタリア音楽の研究家でもあり、著書に「現代イタリア音楽」などがある。
⑬うす　木や石をくりぬいてつくったもの。もちつきなどに用いる。
⑭きね　うすに入れた穀物をつくための道具。もちつきなどに用いる。木製。普通は男性の仕事。
⑮手桶　水が入っている。もちをこねる際に、手をぬらす。当時、女性はこれができて嫁として一人前と認められていた。
⑯笊　藤や柳、竹などを編んでつくったもの。もち米を運ぶときに使ったのか。
⑰地主娘の少年　学生服を着ている。小学生と思われる。
⑱地下足袋　作業用の足袋。
⑲障子　木の枠に紙を貼ったもの。
⑳在郷軍人　右胸に勲章が見える。従軍記章か。
㉑軍帽　軍人の帽子。
㉒軍服　軍人の制服。
㉓乗馬ズボン　馬に乗りやすいように太もも部分にたるみがあるズボン。
㉔チョウカ　革製の長靴。乗馬や軍服着用時に履く。
㉕鞭　皮製の外側にある鞭下。

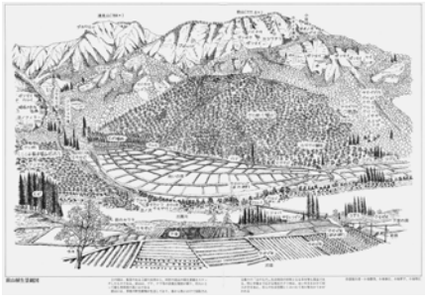
小高町史の写真集に用いた写真
南相馬市小高区

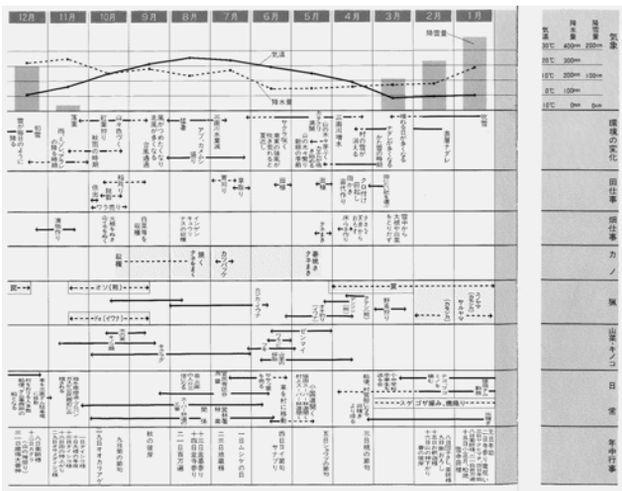
9、図化する工夫

●聞き書きの図化は、視覚的な表現を意味する

●文章では分かりにくくても、図表化することで、格段に理解がすすむ

●こうした技術は誰もが持ち合わせているものではない





『山に生かされた日々』1984　注連縄の図『亘理町史』民俗編 2019

DVD 資料は『相馬市史』民俗編 2017

10、映像資料、音声資料

●文字に置き換えることができない動作や音声などは、音声や映像の電子媒体を使って提供することができる

●電子媒体の信頼性が未知数であり、情報を取り出すハードウェアも永久に保証できるとはいえない

11、編さん担当者の編集技術―執筆者との関係

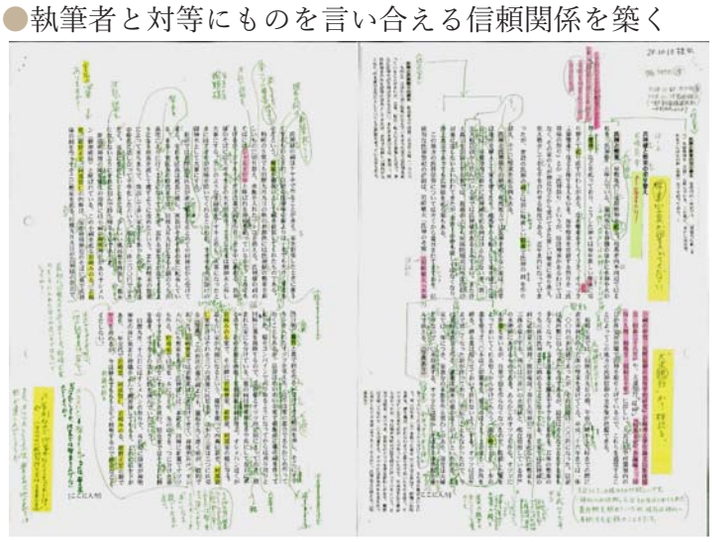
●編さん担当者は編集権を持ち、執筆者と対等の立場にある。

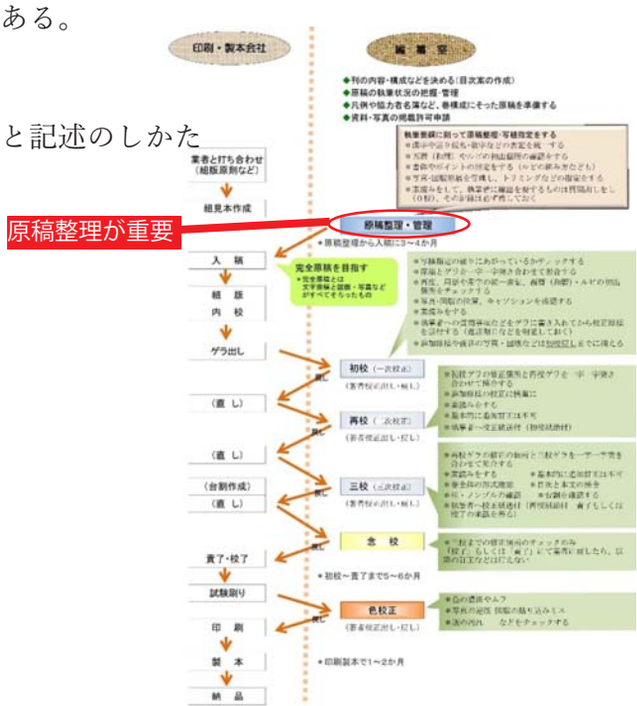
●市民の側に立って、どんな本にしたいかを主張すべき

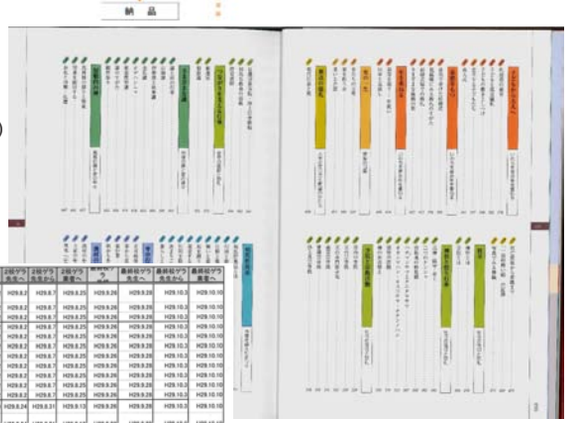
●市民の立場に立って原稿を読み込む

●「分かりやすい表現」＝素人が読んでも理解できる内容と記述のしかた

●執筆者と対等にものを言い合える信頼関係を築く





『相馬市史』民俗編の編集資料
直しが入っている原稿はゼロ校（原稿整理）

←B5 判変形 2 段組